

# シラバス詳細

タイトル「2026年度シラバス」、カテゴリ「経済経営学類」

## 科目情報

< 5 / 5件 >

### 科目名

Academic English Literacy I

### 講義名

Academic English Literacy I

### クラス

### 担当教員

何 敏(r447@ipc.fukushima-u.ac.jp)

実務経験のある教員による講義

### 学年

1年、2年、3年、4年

### キャンパス区分

金谷川キャンパス

### 開講学期

前期

### 開講時期

(前期)

### 曜日・時限

木 2

### 講義室

講義室未設定

### 科目種別

通常講義(学類)

### ナンバリング

### 科目区分

要卒外(システム用)

### 単位区分

要卒外

単位数

2

準備事項

備考

特修プログラム

直接参照URL

[https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC\\_06001B00\\_22/referenceDirect?subjectID=047540165721&formatCD=1](https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047540165721&formatCD=1)

## 授業方法

講義、演習、実技、発表

## 講義情報

### 授業概要とねらい

本授業は、「大学で英語を学ぶとは何か」という根本的な問いから出発し、英語を単なるコミュニケーションのツールとしてではなく、言語間比較の対象、さらに論理的思考力および学術リテラシーを支える基盤として再定義することを目的とする。

機械翻訳やAIが普及する時代において、日本語をはじめとする他言語との比較を手がかりに、英語の音韻・語彙・文法の構造的特徴への理解を深めるとともに、アカデミックな文脈で求められる英語力の本質を探究する。

これらの学修を通して、研究者をはじめ多様な分野で活躍するグローバル人材に求められる英語運用能力の涵養と、その習得に向けた主体的かつ持続的な学習態度の形成を目指す。

さらに、学修効果の定量的評価として、4月期および2月期（後期開講の同科目において）にTOEFL ITPを実施し、通年の学修成果を測定する。その結果を基に、縦断的にアカデミックな英語諸技能の習熟度の変化を可視化し、学修の到達度および課題を客観的に把握する。

### 単位認定基準

1. 大学における英語学修の意義について自ら考察し、英語を論理的思考力およびアカデミックな探究を支える基盤として位置付けることができる。
2. 日本語などの他言語と比較しながら、英語の音韻・語彙・文法の構造的特徴に気づき、これまでに習得した英語の知識を大学の学びに求められるスキルへと発展させ、実践と結び付けることができる。
3. 音素・音節構造などの基礎的理解を踏まえ、それらを語彙習得および音読活動に活用できる。
4. 語彙構造の分析、言い換え、要約、および論理構造の把握の観点から、アカデミックな英文を主体的に精読することができる。
5. 機械翻訳やAIツールを批判的に活用し、自律的かつ持続的に英語運用能力の向上に取り組む姿勢が認められる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（授業の目的・評価方法・テキストについて）
- 第2回 英語発音の基礎知識: アルファベットの名称と音、音素・音節、曖昧母音、Phonics、英語のリズム
- 第3回 日本語母語話者に特有の音韻的課題
- 第4回 音とつづりの関係
- 第5回 シュウシュウするsibilantと複数形の発音
- 第6回 /f/ と /v/: Fukushima? Hukushima?
- 第7回 /l/ と /r/: どっちが難しい?
- 第8回 /m/ /n/ /ŋ/: と日本語の「ん」
- 第9回 /p/ /t/ /k/ vs. /b/ /d/ /g/: 中国語や、韓国語と比べてみよう
- 第10回 /w/ と /j/: アルファベットの「Jj」の名前読みと区別しよう
- 第11回 短母音: 音節構造と外来語表記 (e.g., cut, big)
- 第12回 長母音: 「アー」に聞こえる /ɑ:(r)/, /ɜ:(r)/, /ɔ:/
- 第13回 Liaison 1: 語内における音声変化
- 第14回 二重母音: rain, train, chainに共通する音韻構造
- 第15回 Liaison 2: 語間における音声変化

\* 授業内容に変更が生じた場合は、随時説明します。

## 授業計画（週形式）

## 教材・教科書

オリジナルテキスト  
ゼネラル・サイエンス—はじめての科学技術英語—（南雲堂）  
eBook版TOEFL ITP® Practice Tests Level 1, Volume 3 (ETS)

## 参考図書

Guy Cook 著「Translation in Language Teaching」（Oxford University Press）  
高山芳樹著「Rhythm Pattern Listening」（金星堂）

小林正佳. (2023). 「日本の大学英語教育の現状について（上）（下）」『横浜経営研究』  
He, M., & Fec, E., (2023). Syllable instruction: Recommendations for the teaching of speech and pronunciation in English education in Japan. TELES Journal, 43, 69–83.  
Ramsden, T. (2018). Translation in language teaching (TILT): Implementing translation techniques as effective communicative tools in the language teaching environment. The Language Learning Journal, 51, 249–274.

## 参考URL

## 授業外の学修、及び必要な学修時間

- ・ 授業で配布された資料や授業中にとったメモを参考にして、授業内容の復習を行い、「バラバラめくる」単語帳を作成すること。
- ・ 単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

## 成績評価の方法

出席・授業中の活動：60％  
授業内課題・小テスト：20％  
期末自己評価レポート：20％

## 成績評価の基準

- S: 単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果を上げた（90～100点）  
A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果を上げた（80～89点）  
B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果を上げた（70～79点）  
C: 単位認定基準を満たす最低限の学修成果を上げた（60～69点）  
F: 単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

## オフィスアワー

申し出に応じて対応します。事前にアポイントメントを取って下さい。

## 授業改善・工夫

## 留意点・注意事項

本授業は、日本語と英語の両言語で行われます。留学生はN3以上の日本語力が必要です。

## 教員の実務経験の有無

全国通訳案内士有資格者；法廷通訳及び通訳研修講師の経験有。Certified National Interpreter Guide; Experienced in courtroom interpretation and interpreter training.